

「万有シンポジウムと私」

鈴木國夫

平間先生や山本先生とご一緒して仙台シンポジウムを開催してから四半世紀が経ったことに驚きと喜びを感じています。ご尽力いただいた諸先生方、ご参加いただいた若き研究者、学生の方々に深く感謝を表する次第です。今までの万有シンポジウムの歴史を回顧して、本シンポジウムの特徴や思い出をお話させていただきたいと思っています。

日本の経済発展は、世界トップレベルの科学技術を駆使して、高性能、かつ高品質の製品を次々に生み出す製造業によって長く支えられてきました。しかし、近年、日本の多くの分野の製造業は、中国、韓国、あるいはその他の新興国の追撃を受け、より付加価値の高い精密産業の重要性がますます高まっています。従って、今後も日本が国際競争力を維持し、発展を続けるためには、他者の追従を許さないような画期的な科学技術の開発とそれをフルに活用した製品開発が求められ、それを実現するためには、国際社会に通用する高い専門性はもちろん、広い視野と真の独創性を合わせ持つ若手研究者の育成が必須です。

私が入社した万有製薬はメルク・グローバル企業の一員となり、日本の一企業が世界的製薬企業の中でどのようにその存在価値を示すかが問われる中で、我々は日本の高いレベルの科学技術をグローバルに示そうと考えました。これはちょうど、世界の中での現在の日本の姿と相似していると思います。我々は、そのような状況下、高付加価値精密産業の一つである医薬品産業の活性化、日本企業の存在価値を示すため、基礎研究の学術振興と人材育成が極めて重要であることを認識し、有機合成化学分野におけるシンポジウム活動を開始しました。

具体的には、1989年に有機合成化学分野のシンポジウムを創設し、以来25年以上にわたって日本全国各地（札幌、仙台、名古屋、福岡）で毎年シンポジウムを開催してきました。このシンポジウムの特徴は、若い研究者に有機合成化学の面白さをわかりやすく伝えることであり、講演者には特にその点を依頼し、プログラムの内容も工夫を重ねてきました。さらに2004年に創設された **Lectureship Award** は、日本の若手有機合成化学者を広く世界に紹介する貴重な機会となり、我が国の新進気鋭の研究者がこの **Award** を目指しています。また2010年より創設された「大津会議」では、高度な専門性と広い視野を備えた真のリーダーとなる人材を早期から育成していくことを目的に、専門分野の研究発表に加えて、日本の進むべき道、地球的課題の解決策といった、広い視点での議論を行っています。

私は有機化学こそが科学の原点だと思っています。有機化学の発展は科学の発展につながり、さらには日本の発展のみならず、人類が直面している様々な課題の解決にもつながっていると考えています。有機合成化学のシンポジウムを通して、今後も若い力が社会をより良くするための原動力になっていかれることを希望しています。